

I 領域別超音波検査・診断・治療のトピックス

6. 運動器領域のトピックス

中島 祐子 広島大学大学院医系科学研究科運動器超音波医学

一昔前、超音波検査といえば、心臓やお腹にプローブを当てて検査するもの……そういう認識であった。しかし、超音波診断装置の進歩は目覚ましく、高周波プローブの登場とともに、整形外科診療における関心領域である、浅層にある筋、腱、神経、靭帯、軟骨、骨の鮮明な描出が可能となった。「整形外科＝まず単純X線」という教育を受けてきた医師たちも、超音波の有用性に気づき、診療に取り入れる動きが加速している。単純X線では見えなかったものが見えるようになり、“診断”の幅が広がったことも魅力的なことではあるが、整形外科医に急速に広まった背景には、“治療”に応用できることが大きいと考える。そして、研究分野でも大きな進展を見せている。

今回の特集では、次項から「運動器領域の技術と臨床の最新動向」として、超音波検査に精通している筆者たちに執筆を依頼した。現在、運動器領域でどのようなことが話題となっているか、非常によくわかる内容になっている。今までは、他領域の技術や知識を運動器領域の超音波検査に取り込んできた。しかし、今後は、運動器から他領域に提案する時代が来ると思っている。普段は運動器の診療に携わらない読者も多いと思うが、ぜひ一読して、運動器超音波診療の方向性や可能性を感じていただきたい。

検 診

運動器領域で古くから行われてきた「乳児股関節検診」「野球検診」「サッカー検診」、これらは多職種の人材の協力があって初めて成り立つ事業である。そして、その中に超音波検査が取り入れられるようになってからは、診断精度もかなり上昇し、今ではなくてはならないモダリティとなっている。検診における超音波検査は、決まった部位を決まった方法で検査し、その判断基準も決められているため、検査技師の方々の得意とするところでもある。運動器超音波検査に足を踏み入れることに迷っている検査技師の方々がいたら、ぜひこの検診事業にかかわってみることをお勧めしたい。

1. 乳児股関節検診

「乳児股関節脱臼見逃しゼロ」をめざして、日本全国各地で超音波検査が取り入れられるようになった。乳児の股関節は軟骨が占める割合が多いため、単純X線では判断するのが難しく、超音波検査が有用である。東京女子医科大学八千代医療センターの橘田綾葉先生が、その方法、画像の解釈、分類について、わかりやすく簡潔にまとめてくれている(36～39ページ)。一読すれば、イメージは湧いてくる。見逃されて治療に難渋する症例が少しでも減らせるように、多くの方々に興味を持っていただければ幸いである。

2. スポーツ検診

「野球検診の聖地」として知られている徳島県では、年に一度大規模な野球検診を行っており、現在日本中で行われている検診の参考モデルとなっている。多くの少年少女が将来の夢を描きながら野球を楽しんでおり、大人としてもそれを見守っていきたいと考える。しかし、外側型の野球肘と言われる上腕骨小頭の離断性骨軟骨炎は、初期には無症状であり、症状が出るころにはすでに手術が不可避な状態となっていることも少なくない。無症状のうちに障害を発見し、早く手を打てば、大きな障害に進展することなく野球を継続できるため、検診の役割は重要である。これを解決したのが、ポータブル型の超音波診断装置であった。また、サッカー検診にも、初期に無症状である膝の離断性骨軟骨炎に対する超音波検査を導入し、治療介入が必要な選手を見つけ、本人や家族、監督やコーチなどに説明し、医療機関への受診を促すことにも非常に有用である。初期の検診事業から携わっている徳島赤十字病院の鈴江直人先生が、その歴史からわかりやすくまとめてくれた(40～43ページ)。スポーツ検診は、その子どもの人生を左右する事業と言っても過言ではない。子どもたちの輝かしい笑顔が続くように、多くの方々と協力して、これらの事業を日本全国で継続していききたいものである。